

会議録

会議の名称	第10期 第1回所沢市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和2年7月16日(木)午前10時00分から午前11時45分まで
開催場所	所沢市役所 8階 大会議室
出席者の氏名	審議会委員 秋元 智子、小松 登志子、大川 敏彰、川崎 幹生、宮高 隆、 加藤 一博、齋藤 賢吾、山川 卓也、柿木 薫、岡野 祥平、 大場 理江、土田 昭美、村野 直美
欠席者の氏名	審議会委員 本橋 伸一
説明者の職・氏名	
議題	(1) 本市におけるさらなるごみ減量方策について (2) その他
会議資料	(1) 次第 (2) 委員名簿 (3) 審議会開催スケジュール(案) (4) 前回答申(令和元年8月9日付) (5) 「本市のごみ処理の現状」 (6) 所沢市廃棄物減量等推進審議会条例及び所沢市情報公開 条例(抜粋) (7) 所沢市一般廃棄物処理基本計画(令和元年10月改訂版) (8) 清掃事業概要(平成30年度実績) (9) まちごとエコタウン所沢構想 実績報告 (10) レジ袋有料化チラシ (11) エコバッグチラシ

担 当 部 課 名	環境ｸﾘｰﾝ部長 廣川 澄芳	環境ｸﾘｰﾝ部次長 大館 真哉
		環境ｸﾘｰﾝ部次長 一井 里映
	資源循環推進課	
	課 長 池田 淳	主 幹 森澤 律昭
	副主幹 村中 慎児	主 査 加藤 秀一
	主 査 佐藤 克範	主 査 飯塚 健
	主 任 井口 徳之	主 任 田中 綾華
	渡邊 尚子	
	東部ｸﾘｰﾝセンター所長	古澤 祐晴
	西部ｸﾘｰﾝセンター所長	深谷 康博
収集管理事務所長	當摩 卓	
リサイクルふれあい館長	金子 敦	
電話	環境ｸﾘｰﾝ部資源循環推進課 04-2998-9146	

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
環境ｸﾘｰﾝ部長	<p>審議会委員に対して、所要により欠席となった市長に代わって環境ｸﾘｰﾝ部長から委嘱状が交付された。</p> <p>第 9 期所沢市廃棄物減量等推進審議会の答申にて「さらなるごみ減量を図るためには、バイオマス資源化施策やごみ有料化等をはじめとして、近隣他市に先駆けた施策の検討も今後必要となると考えられます。」とあるように、所沢市のさらなるごみ減量化の推進を図っていくために、どのような方策が必要となるのか検討していくために、皆様にご協力をお願いします。</p>
資源循環推進課 副主幹	<p>審議会委員の紹介が行われた。</p> <p>事務局職員の紹介が行われた。</p> <p>審議会資料作成支援等を請け負ったコンサルタント会社社員の紹介が行われた。</p> <p>環境ｸﾘｰﾝ部長が仮議長を務め、互選により、会長に秋元智子委員、副会長に大川敏彰委員が選出された。</p> <p>会長から挨拶があった。</p> <p>副会長から挨拶があった。</p> <p>会長に対して、環境ｸﾘｰﾝ部長から諮問書が渡された。</p> <p>配布資料の確認が行われた。</p>
資源循環推進課 課長	<p>「会議の公開」と「会議録の作成」について、次のとおり決定した。</p> <p>○会議は原則公開とし、傍聴を認める。</p> <p>○会議録は要約方式とする。発言した委員の氏名は記載しない。会議録の確定は、会長の承認による方法とし、確定後公開する。</p>

<p>資源循環推進課 主任</p>	<p>今後の審議会スケジュールについて、説明が行われた。</p> <p>引き続いて、議事に入った。</p> <p>資料「本市のごみ処理の現状」について、説明が行われた。</p>
<p>会長</p>	<p>引き続き、審議に入りたいと思います。只今の事務局からの説明に対して、ご意見やご質問がありましたら、発言をお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>p8のごみ量の推移について、所沢市のごみ量はリサイクルを行ってきたため平成29年度までは減少してきたということかと思いますが、その後増加となっている要因は何があるのでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>他に類似するご質問がありましたら、あわせてご質問ください。</p>
<p>委員</p>	<p>p10の家庭系ごみ1人1日あたり排出量(ごみ減量目標との比較)について、令和元年度の実績で670g/人・日、長期目標として令和11年度に654g/人・日となっており、16g/人・日の減量が必要となっていますが、年間のごみ量に変換するとどの程度の減量が必要なのでしょうか。</p> <p>また、平成29年度まで順調に燃やせるごみの発生量が減少してきた要因は何があるのでしょうか。</p>
<p>資源循環推進課 副主幹</p>	<p>1点目につきましては、平成30年度については横ばい、令和元年度に増加という推移となっております。令和元年度のごみ量を分析した結果、前年同月比で、9月は約600t増加しており、10～11月は合計約1,000t減少、12～1月は合計約500t増加しております。これらのことから、消費増税の影響によりごみ量が増加したのではないかと考えております。しかし、消費増税の影響とは考えにくい他の月についても前年同月に比べ、微増傾向が見られましたので、現在行っている各ごみ減量施策によるごみ減量の効果が限界に近づいているのではないかと考えております。今後は、現在のごみ減量施策の充実を図るとともに、新たなごみ減量施策が必要ではないかと考えております。</p> <p>2点目については、年間の総ごみ量に変換させていただきますと、</p>

	<p>長期目標は令和 11 年度で 95,972t となります。令和元年度の実績が 102,488t ですので、約 6,600t の減量が必要となります。このうち、燃やせるごみを申し上げますと、令和 11 年度の目標が 60,521t、令和元年度の実績が 70,379t ですので、約 10,000t の減量が必要となります。</p> <p>3 点目につきましては、市民の皆様にご協力いただき、分別品目を増やす等の様々な事業展開を図ってきた成果だと考えております。一方で、これまでの事業継続による減量には限界があると考えております。平成 26 年度に集積所から家庭ごみを採取し組成分析を行ったところ、燃やせるごみに新聞、雑誌、ダンボール、古着・古布、プラスチック、紙パック、ペットボトル等の資源物が約 22.5% 含まれていたという結果があります。このことから、事業継続により若干の減量は可能かと考えておりますが、今後は既存の事業に加えて、新たな減量施策が必要ではないかと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>最近、新型コロナウイルスの影響で、ステイホームと言われまして、家庭で過ごされる方も多くなっていると思います。ますます家庭系廃棄物が増えていっているのではないかと想像します。</p> <p>他に何かご質問やご意見はありませんでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>p14 の焼却処理率について、県や全国平均は増加傾向にあります。所沢市は長期的に見て減少傾向となっております。この違いはなぜでしょうか。年度ごとに焼却処理率が増減しているため、ごみ組成等に変化があったのかもしれませんが、組成調査の結果から違い等はあったのでしょうか。</p>
<p>資源循環推進課 副主幹</p>	<p>この場では詳しいことを説明するのが難しいのですが、一つの要因として考えられることとしては、集団資源回収や家庭ごみの収集において、古着・古布の回収に力を入れていたため、これらの資源物の燃やせるごみへの混入が減少し、焼却処理率の減少につながったというような流れが見えるのではないかと分析しております。</p>
<p>委員</p>	<p>p11 の 1 日あたりの事業系ごみ排出量（ごみ減量目標との比較）について、中長期目標の数値が近年の実績値に比べて高く設定されておりますが、目標値をたてられた際の実績値を基準にされているからなのではないでしょうか、それとも事業活動の停滞を招かないような配</p>

<p>資源循環推進課 副主幹</p>	<p>慮からなのでしょうか、理由をお聞かせください。</p> <p>1 日あたりの事業系ごみ排出量の目標設定については、平成 26 年度に設定をしており、平成 25 年度の実績値に基づき設定をしております。このことから、近年の実績値に比べて高い値となっております。近年、1 日あたりの事業系ごみ排出量が減少している要因としては、多量排出事業者への立ち入りや搬入ごみの検査等に力を入れさせていただき、ご協力いただけたことが考えられます。</p>
<p>会長</p>	<p>資源循環推進課から、平成 26 年度の調査の結果、燃やせるごみの約 22.5%が資源物であり、もう少し分別できるのではないかというお話がありましたが、これ以上の分別や普及啓発に力を入れることで、ごみの減量が見込めるか市民としてのご意見をお聞かせいただけないでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>ステイホーム期間中に断捨離を行った方も多く、ごみの中にリサイクルができるものが入っていた可能性はあるかと思います。</p> <p>他自治体の話になってしまいますが、例えばごみ袋有料化を行っている自治体ですと、ごみ袋有料化によって、ごみの中身がはっきり分かるので、資源物とそうではない物がごみを出す側も出される側もわかり、ごみ分別が促進されるのではないかと思います。ごみ収集日ではないごみが残置されることもあるので、ごみ分別でこのような問題の解決が図れないかと思います。</p> <p>また、外国人の方がごみ分別の仕方を理解できていなく、ごみが集積場に残置され、他の市民がそのごみを再度分別し、排出しているというような実態もあります。市として、外国人にもごみ分別が分かりやすいように周知し、分別を促進するような取り組みを行っていただけないかと思います。</p>
<p>資源循環推進課 副主幹</p>	<p>1 点目につきましては、ごみの有料化を導入し指定袋にすることでごみの見える化が図られ、ごみ分別が進むのではないかというご意見でしたが、今回の審議会の中で方策や制度についてご意見をいただき、ごみ減量化施策に反映させていただきたいと考えておりますので、今後ともご意見をいただければと思います。</p> <p>2 点目につきましては、ごみ分別ルールの周知のため、スマートフォンアプリの導入や外国人の方向けの「ごみの分け方・出し方」</p>

	<p>を配布させていただいたり、工夫させていただいているところではあります。スマートフォンアプリについても外国人向けの対応等も考えてはおりますが、引き続き検討させていただきたいと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>他にご意見ある方いらっしゃいませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>ごみ分別について、資源物が燃やせるごみに約 22.5%混入しているとのことですが、下着等の資源物としては出しにくいものについては燃やせるごみとして出すというような事情もあるかと思えます。また、単身者や働いている方の中には、細かい分別が難しかったり、月 1 回の収集では家で保管が難しい等の事情もあるかと思えますので、そのような事情の方を減らしていくのは難しいと思えます。個々人で分別に対する意識の差があるので、意識をどう変えていけばよいのか解決策が現時点ではないのですが、今後検討出来たらと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>ごみに対して、個々人で意識の差があるので、市でごみ分別のルールを定めていても分別される人とされない人がいるのが現実だと思えます。意識が低い方には個別で働きかけを行っていかねば変わらないのかと思えます。</p> <p>また、話題の中で「ごみ」と出ていますが、「ごみ」とはどこまでを指しているのでしょうか。古着や雑貨、瀬戸物等については、無料もしくは多少の手数料で収集して海外に輸出し、販売するような事業もあります。日本と海外では物への感覚も異なり、日本では「ごみ」となっても海外では「売れるもの」とされているものもありますので、そのような認識も広まっていくとごみの減量につながっていくのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>外国人や学生へのごみ分別ルールの周知・徹底の方法として、大学の学園祭にブースを出されて活動を行っている自治体もありますので、所沢市もイベントの際にそのような活動を行ってはいかがでしょうか。</p> <p>また、焼却処理量を減らしてリサイクル率を上げるという考えはよいのですが、汚れてしまったプラスチック類などリサイクルではなく焼却処理した方がよいものもあるかと思えます。その際にサー</p>

<p>資源循環推進課 副主幹</p>	<p>マルリサイクルについては、リサイクル率にどのように考慮されているのでしょうか。</p> <p>1 点目については、所沢市においては、秋に市民フェスティバルを行っておりまして、その中で小学生向けにごみ分別ルールを周知・啓発するゲームを行っております。また、ダイア（埼玉県西部地域まちづくり協議会）という所沢市と近隣の狭山市、入間市、飯能市、日高市で構成している協議会があり、各市で行われているイベントの中で手作り石けんの販売や瀬戸物類等の配布も行っております。いただいたご意見を踏まえ、さらなる周知・啓発活動が必要かと思っておりますので、今後とも周知・啓発活動を継続していきたいと考えております。</p> <p>2 点目については、所沢市では、サーマルリサイクルはリサイクル率に入れておりません。今後検討させていただきたいとは思いますが、サーマルリサイクルをリサイクル率に入れてよいという明確な基準がないため、現在の見解としてはリサイクル率に入れることは難しいと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>p5 のごみ分別等内訳（家庭系ごみ）を見ますと燃やせるごみがあまり減っていないように見受けられます。燃やせるごみを減量していくというのがポイントかとは思いますが、生ごみは重量が大きいので、水切り等の協力がなかなか得られていないのかと思えます。このことについてご意見等ございましたらお聞かせください。</p>
<p>委員</p>	<p>重点施策を見ますと新たな資源化・処理方法、委託先の検討を行うとあり、その中にバイオマスが含まれているのですが、既に設備の計画等があるのでしょうか。</p>
<p>資源循環推進課 副主幹</p>	<p>現時点で具体的な計画はございません。ただし、所沢市では木質バイオマスより生ごみの資源化が有効ではないかと考えております。そこで、生ごみのメタン化施設として、山口県防府市と新潟県長岡市の先行導入事例の視察を行った経緯があります。</p>
<p>委員</p>	<p>徐々に生ごみ資源化の施設が全国的に増えているのですが、所沢市で燃やせるごみの中に生ごみはどのくらい入っているのか調べられていたらお教えいただけないでしょうか。</p>

資源循環推進課 副主幹	平成 26 年度の組成調査では、生ごみ類については、燃やせるごみの約 42%という結果になっております。これに基づいて試算を行った結果、生ごみの資源化施策を行った場合、資源化に利用できる生ごみは約 2 万 t と推計しております。
委員	他自治体で生ごみの分別を行ってはおりましたが、うまくいかず、昨年度分別をやめられた事例もありますが、所沢市は生ごみの分別についてどのようにお考えでしょうか。
資源循環推進課 副主幹	分別するのは難しいというご意見が先ほどもありましたが、現在でも 10 種類の分別で実施しておりまして、近隣市と比較しても品目が多く、資源化の推進にかなり力を入れているところでございます。もし当市で生ごみを分別収集するとしましたら、市民の方々への負担面、カラスの被害対策、臭気対策、収集の日程見直しなど、いくつもの課題をクリアしなければならないという点がございしますので、なかなか難しいのではないかと思います。
委員	p20 の重点施策の中で、「資源化に適さない廃プラスチック類を焼却し、熱回収を図りつつ最終処分量削減に努める」とありますが、資源化に適さない廃プラスチックとは汚れたプラスチックを指すのでしょうか。また、資源化に適さない廃プラスチックを選別する作業を行っているのでしょうか。
資源循環推進課 副主幹	容器包装プラスチックとして回収させていただいたプラスチックは、公益社団法人日本容器包装リサイクル協会に引き渡しております。ただし、汚れたプラスチック等は引き取ってもらえませんので、混入している規格外のプラスチックや汚れているプラスチック、容器包装プラスチック以外のプラスチック、不燃物等については手選別で分けております。廃プラスチック等については、東部クリーンセンターで焼却し、発電するサーマルリサイクルをしております。
会長	他になければ議事（２）「その他」に入りたいと思います。
資源循環推進課 副主幹	次回の日程は 8 月の予定ですが、正・副会長と調整したうえで、改めてご案内を差し上げたいと考えております。

環境ｸﾘｰﾝ部長	ところざわサクラタウンや東所沢公園について説明が行われた。
会長	ありがとうございました。それでは最後に副会長にまとめていただいて終わりにしたいと思います。よろしくお願いいたします。
副会長	<p>製品プラスチックをどうするかという話を経済産業省と環境省が進めております。また、容器包装プラスチックの中にリチウム電池が混入しており、火災の原因になるなど、課題となっております。また、プラスチックや古紙、古布についてもリサイクルルートを多方面に持っていない自治体においては、リサイクルも難しくなっている事情にあります。</p> <p>また、環境学習により長期的なコンシューマーをどう形作るかというような面や高齢化社会を迎えるにあたって、お年を召した方へのごみ出しについて福祉面からの視点で廃棄物行政を見る必要があると改めて感じました。</p> <p>ごみ有料化等の課題は分別の徹底をどう図っていくのか、市民の方々がやりやすい方法を今後検討していければよいと思います。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
会長	ありがとうございました。では事務局にお返ししたいと思います。
資源循環推進課 副主幹	ありがとうございました。これにて第1回廃棄物減量等推進審議会を閉会したいと思います。